

ームは、カワゲラの仲間がど
のように進化したかについて
の重要な発見だとされている。
発表は5月7日付。カワゲ

カワゲラ

ヒロムネカ



ミヤマノギカ
の1齢幼虫
平べったい形
完成してい

1齢幼虫はスレンターな形態

進化体系に新たな知見

パネル下でサカキ生産

いわき 営農型太陽光発電が始動

神事などに用いられるサ
カキの生産や加工、販売を
手掛ける「彩の榊」(東
京都)と、太陽光発電設備
の設計や販売、管理などを
手掛ける「アースコム」(埼

玉県)は2日、太陽光発電
施設を設置したいわき市山
玉町打越の農地でサカキの
生産を始めた。

営農型太陽光発電と呼ば
れる事業形態で、浜通りの

県外で同様の事業を展開
する彩の榊によると、山林
に自生するサカキは適度な
日陰を好むため、太陽光パ
ネルの下で栽培するのに適
しているという。



太陽光発電のパネルの下に植えられたサカキ

耕作放棄地の解消や、障
害者の雇用創出を目指す両社
者の「ミライ型農業プロジェ
クト」の第一弾。
今回は耕作放棄地だった
6ヶほどの農地に太陽光パ
ネルを設置し、270株の
サカキを植えた。今後、市
内の障害者施設と連携して
栽培する。太陽光パネルの
発電能力は60キロワットで、東北
電力に売電している。
現地で行われた発電設備
の設置式典では、彩の榊の
佐藤幸次社長、アースコム
の丸林信宏社長らがサカキ
を植樹するなどした。将来



2020年度1年間の生
活保護申請件数が計22万8
081件(速報値)に上り、
前年度から5039件(2
・3%)増えたことが2日、
厚生労働省の集計で分かっ
た。新型コロナウィルスの
感染拡大が長引き、雇用情
勢が悪化したことが影響し
た。上昇に転じるのは、リー
マン・ショック後の09年度
に過去最多の34万9223
件となって以来11年ぶり。
長らく減少傾向が続き、
19年度は22万3042件だ
ったが、20年春に新型コロナ
ナの緊急事態宣言が初めて

的には耕作放棄地1万7千
カ所にプロジェクトを拡大
する計画で、佐藤社長は取
材に「まずはこの土地を大
切にし、一つでも多くの耕
作放棄地の解消、一人でも
多くの障害者の雇用につな
げたい」と語った。
また、佐藤社長によると、

浜通りは良質なサカキの産
地だったが、震災と原発事
故の影響で生産が途絶えた
ままといい。
佐藤社長は「応援してく
れる人は絶対にいる。浜通
りのサカキを復活させ、風
評払拭につなげたい」と
話した。

生活保護申請11年ぶり増

20年度 コロナ影響、2.3%上昇

厚生労働省は同日
の生活保護申
請件数は前年
同月比24・9%
増と大幅に増えた。

厚労省は同日
の生活保護申
請件数は前年
同月と比べ、
2万2803
件増えた。前年
同月は7カ月連続
加幅をみると前
年同月比24・9%
増だったが、
7月以降は前年
同月比24・9%
増と大幅に増えた。

フラッシュ

2県から災害見舞金

埼玉、山梨両県は2
日、2月13日の本県沖
地震の見舞金として本
県に各50万円の計100
万円を贈った。

贈呈式は都内の県東京事務所
で行われた。埼玉県東京事務所
の山崎明弘所長、山梨県東京事

災害ドローン



NTT東日本グループは
2日、南相馬市原町区の市
復興工業団地で無人航空機
(ドローン)を活用した災
害対策訓練を実施した。ド
ローンの空撮で被災状況を
把握するなどの訓練を行
い、災害発生に備えた。
有事の際にインフラの早
期復旧につなげることを目
的とし、3種
が用意された。
通常の機体
費を抑えて飛
行のほかに、
間で通信線の
「通線ドロー
ン」で活用され、
NTT東日